

## 軍事資源化の観点によるアメリカ軍の水管制に関する研究

立命館大学大学院政策科学研究科

政策科学専攻博士後期課程

タマイ ヨシナオ

玉井 良尚

水は軍事資源としてどのようにして管理されているのであろうか？またその管理はどこまで体系化されているのであろうか？水は人間にとって欠くことのできない資源であるがゆえに、軍隊が水を取らずに長期間戦闘に挑むことは不可能である。にもかかわらず、石油や鉄といった他の戦略資源と比較して、水の軍事資源としての重要性や軍事上の位置づけなどを論じた研究はほとんどない。だが、クラウゼヴィッツの「重心」論に鑑みれば、水は間違いなく軍事上の「重心」に位置づけられうる資源である。水は飲用資源というだけに留まらない。水が集まり大河となれば、それは軍事上重要な輸送路となりうる。また水がダムによって湛えられることで、軍需生産にとって必須の電力を生み出す第一次エネルギーとなる。そして戦争の際、敵国のこの種の水の社会的機能を止めることができれば、それは自軍を大いに利することとなり、逆に自国のその機能を止められれば大いに不利となる。さらに水は武器にもなりうる。大量の水の流れを操作するダムや堤防が破壊的意図をもって開放された場合、それより下流域における生命・財産は壊滅的被害を受ける。

本論文は、上述のような水の軍事利用、すなわち水の軍事資源化を考察するために、アメリカ軍による水管制の歴史を整理・分析したものである。アメリカ軍は今日も、衛生やロジスティクスといった観点から水を強力に管理している。

第1章では、軍事におけるロジスティクス論および軍事衛生論について整理した上で、それら観点から水を軍事資源として考察する意義について説明した。その上で、本論文は、戦時および平時にかかわらず維持されるアメリカ軍による水管理を「水管制」として定義した。「水管制」として定義する理由としては、軍が水に関する領域すべてを支配しているわけではなく、軍が重要と判断した領域に対して集中的に関与することによって実質的に軍が水を広範に統治している体制を見出せるからである。本論文では、軍が管制する領域として河川、給水、そして水インフラを挙げ、以降の章で分析を行った。

第2章では、水管制の詳細な分析に入る前に、戦争や軍を律する戦時国際法において水がどのように位置付けられ保護されてきたかについて分析した。本章の分析によって得られた結論は、1977年にジュネーブ諸条約第一追加議定書が成立するまで、戦時における水保護規定が存在しなかったこと、それゆえにあらゆる水の軍事利用が違法ではなかった時

代のほうが久しかったことである。

続く第3章では、アメリカ軍による水管制の端緒が19世紀アメリカ本土の河川管理にあるとして、アメリカ陸軍工兵隊の国内河川管理の掌握へと至るプロセスについて論じた。本章で得られた結論は、1812年米英戦争の戦訓により国内軍事輸送路の重要性を軍が認識し、その整備のために陸軍工兵隊が活用されるようになった歴史的展開である。

第4章では、アメリカ軍の給水活動の歴史的展開、とりわけアメリカ外地における給水戦略の展開について分析した。西部開拓が終わったアメリカは20世紀に入り、アジアおよび太平洋地域に本格的に進出した。その端緒は、ハワイとグアムの併合、そしてフィリピンの植民地化である。なかでもハワイにはアメリカ陸海軍の太平洋基地が築かれたが、それはアメリカにとって太平洋上における給水場の設置を意味していた。くわえて、アメリカ軍の国外での軍事展開が現在も続く中、そこでの水管制の主たる領域となるのは駐留基地・駐留軍への給水である。とりわけ困難が伴うのは、占領地における軍の駐留である。この占領地での水管制、すなわち占領地での給水戦略について分析するために、第二次大戦後の日本占領期におけるアメリカ軍の給水戦略を取り上げ、分析した。この分析によって得られた結論は、アメリカ軍が占領地の政府および現地住民、そして水インフラを効率的に活用していたということであった。アメリカ軍は占領地に必要最低限の水インフラ技術や資材を投入しつつ、現地の水インフラを極力利用することで人員とコストを過剰にかけずに、安定的な水質の飲用水を得ているのである。

第5章では、朝鮮戦争以降に見られるようになったアメリカ軍による水インフラ攻撃についての分析を試みた。アメリカ軍は、朝鮮戦争(1950年～1953年)では水豊ダムや華川ダムに対して爆撃を行い、湾岸戦争(1991年)ではイラク国内4か所のダム発電施設を攻撃し、そしてイラク戦争(2003年)では海兵隊特殊部隊がイラクのハディーサ・ダムを強襲・占拠した。さらにIS掃討作戦(2014年～)では、アメリカ軍はISが占拠したダムの奪還作戦を実行した。このようにアメリカ軍はここ半世紀で水インフラ、とりわけダムを戦略対象とし始めた。だが国際人道法は、戦時において軍がダムを攻撃対象とすることを原則禁止している。このダム攻撃禁止規定へのアメリカ軍の受容を分析すると、アメリカは国際法違反にならない形を取りながらダムを戦略対象とする作戦を実行していることがわかった。

そして、これら各章の分析を第6章でまとめ、アメリカ軍の水管制について以下の特徴があることがわかった。第一に、その機能目的が、まずはロジスティクスから始まり、次に軍事衛生に基づいた給水、そして敵国が有する水インフラの破壊ないしは掌握というように漸次追加されていっていることである。第二に、水管制の機能の追加は、戦争を経験することで実施されていることである。このように、アメリカ軍の水管制は進歩し続けることで、軍は、河川水路、給水施設、ダムといった領域で構築・維持管理・防衛・破壊という行動を取ることが可能になった。すなわち、水管制の実践を通じて、平時・戦時問わずに水インフラに対して構築・維持管理・防衛・破壊といった行動を取ることができるようになったことで、軍の水管制は、他の水に関するステークホルダーと較べて極めて強力なのである。

Abstract of Doctoral Dissertation

## A Study of the U.S. Army's Water Control from the Perspective of Military Resources

Doctoral Program in Policy Science

Graduate School of Policy Science

Ritsumeikan University

タマイ ヨシナオ

TAMAI Yoshinao

How is water managed as a military resource? To what extent is water management systematized? It is impossible for an army to take a long battle without water, which is an indispensable resource for humans. Nonetheless, no research has explored the importance of water as a military resource and its role in the whole military system, although various studies on other strategic resources such as oil and iron exist. However, according to Carl Philipp Gottlieb von Krausewitz's Center of Gravity (CoG) theory, water is a resource that can be perceived as a military CoG. Water is not limited to drinking resources. When water accumulates and becomes a large river, it can be used as an important military transport route. In addition, when water is stored behind a dam, it can be used to produce electricity necessary for the munitions industry. If one country's army succeeds in paralyzing this kind of water function in an enemy country during war, it will be very beneficial to the army. Conversely, if this function is disabled by the army of an enemy country, one's country will be at a disadvantage. Additionally, water can be a weapon. If a dam or dike that controls a large volume of water is opened with destructive intentions, lives and property downstream will be devastated. International humanitarian law currently prohibits military forces from attacking water infrastructure in the wartime, and aims to establish water protection norms during war, by treating water as a humanitarian resource. However, the U.S. military ignores this movement and conducts war on strategic water infrastructure facilities such as dams and dikes. In other words, the U.S. military is strengthening military water control. In this dissertation, I analyzed the historical development of water resources by the army to understand the tension created between "military use by the army" and "norms of protection of water during war". I clarified the historical development of the U.S. Army's water control which has strengthened as the U.S. Army has seized pivotal water management points, effectively placing them under its control. In the process of this

analysis, I discovered that U.S. Army's water control began with the recognition of rivers as an important resource for military transport through painful experiences during the War of 1812 and evolved over time in, for example, World War II (1939-45), the Korean War(1950-53). the Vietnam War (1965-73), the Gulf War (1991), and the Iraq War(2003-11) . Its development gradually increased in terms of functions and purposes, starting with logistics, water supply and sanitation, and destruction of water infrastructures. In other words, water control has strengthened the U.S. military.